

情報処理士は、情報スキルに強いだけの人材ではありません。 より高度なビジネス活動ができる人材です！

「確かな情報実務能力を備えていることに加え、多様な業務に生きる課題発見・解決力を養い、さまざまなスタッフと協力しながら、結果を出すことができ、テクノロジーが急速に進化する社会において、より高度なビジネス活動ができる人材」。そんな人材を大学が育て、その質を保証するのが、情報処理士資格、上級情報処理士資格です。

情報処理士資格取得者は

情報実務上の課題を把握し、その解決に向けて自らソフトウェア操作、インターネット活用、データ管理及び統計分析などを行い、情報を収集・活用し、様々なスタッフと協力して課題解決に貢献します。

パソコンなどの
情報機器の操作スキルを持ち、情
報の収集・加工・編集・発信
ができます。

ビジネス現場で情報実務を
実践し、主体的に試行錯誤を重ね、
目標の達成に
貢献します。

情報実務知識・スキルを
活用し、忍耐強く困難を克服し、
問題を発見し、解決します。

統計分析により、課題を明確にし、
多様な人々と協力し、創意工夫を凝らし、
総合的課題解決力を発揮します。

上級情報処理士資格取得者は

インターネット活用、データ管理及び統計分析などを行う総合的な実践力を習得し、高度な情報実務能力を発揮し、問題の発見と解決に貢献し、チームの機動力を強化します。

Aiなどの急速に進化する
情報技術の学習を続け、自分の技能を
検証し、改善できます。

自己管理能力と
責任感を持って、
様々なスタッフと協力して
課題解決に取り組みます。

情報システムや
社会の変化に対応し、能力向上に
努め、チームの能力向上
にも貢献します。

社会が切望する
社会人基礎力を養い、自己を適切
に管理し、高い業務効率を保ちます。

情報処理士、上級情報処理士資格「学修の質保証の方法」

大学・短期大学は、協会認定のルーブリックによる
評価基準を参考に到達目標達成度評価表を作成

大学・短期大学が、到達目標達成度評価表の評価
結果を協会に提出

評価表をもとに、学生が資格教育課程の総合的ま
とめの学修で総合的に自己評価する。

協会は、教育課程の単位認定結果と到達目標達成度
評価結果によって資格の認定

学生の自己評価を参考に教員が到達目標の達成
度を確認・評価

修了生の学修成果を担保するとともに、資格の社会的通用性を高めることを目指します。

情報処理士資格

情報処理士資格は、確かな情報実務能力を備えていることに加え、多様な業務に生きる課題発見・解決力を養い、さまざまなスタッフと協力しながら、結果を出すことができ、テクノロジーが急速に変化する社会の変化に対応して学び続ける能力を持つ能力を保証する資格です。

「情報処理士」資格授与要件

情報処理士資格は、下の 3 領域に関して、それぞれの到達目標があります。各領域の必修修得単位数を満たすとともに、選択科目を含めた総修得単位数を10単位以上修得のうえ、到達目標を達成することにより資格が授与されます。

領域・資格到達目標		開発する能力	必修修得単位数	総取得単位数
領域 1	情報社会において情報を適切に扱う基礎的知識と技能をもち、他者への思いやりをもって協働できる働く基本能力を身につけている。	・情報社会における情報の知識 ・情報社会において情報を扱う技能 ・情報社会において情報を扱う態度	2単位以上	10単位以上
領域 2	情報科学の知識と技能を理解・修得した上で、それらを実務に適切に活用することができる。	・コンピュータとネットワークの知識と実践 ・データサイエンスと人工知能(AI)の知識と実践	2単位以上	
領域 3	情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決することの重要性を理解している。	・課題解決の技能 ・課題解決の態度	2単位以上	

目標に到達するための教育課程編成の例

情報処理士資格に関して本協会が設定した到達目標に至るために各大学は、独自の工夫を凝らした学修項目・学修プログラムを設定して、学生の教育を行います。下はその一例です。

情報処理士の領域 2「コンピュータとネットワークの知識と実践」で設定された学修項目と学修プログラムの一例

学修項目	学修プログラム
・ハードウェアとソフトウェア ・ファイル・データ管理 ・デジタルで表される情報とデータ量 ・画像と音のデジタル化 ・ソフトウェアの開発とアルゴリズム ・人工知能(AI)の基本と社会	講義を通して、デジタル技術を活用する上で必要となる基礎知識を習得する。加えて、パソコンを使った演習により、情報収集、分析、整理、運用、発信、ソフトウェア開発の概念について学ぶ。

「上級情報処理士」資格授与要件

上級情報処理士資格は、下の3領域に関して、それぞれの到達目標があります。各領域の必修修得単位数を満たすとともに、選択科目を含めた総修得単位数を24単位以上修得のうえ、到達目標を達成することにより、資格が授与されます。

領域・資格到達目標		開発する能力	必修修得単位数	総取得単位数
領域1	情報社会において情報を適切に扱う知識・技能・働く基本能力をもち、他者への思いやりをもった実務を論理的・倫理的に実践する重要性を理解している。	・情報社会における情報の知識 ・情報社会において情報を扱う技能 ・情報社会において情報を扱う態度	2単位以上	24単位以上
領域2	情報科学の知識と技能を理解・修得した上で、それらを実務に適切に活用する実践力を有し、成果を出すことができる。	・コンピュータとネットワークの知識と実践 ・プログラミングの知識と実践 ・データサイエンスと人工知能(AI)の知識と実践	4単位以上	
領域3	情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決する基本能力を身につけている。	・課題解決の技能 ・課題解決の態度	2単位以上	

目標に到達するための教育課程編成の例

上級情報処理士資格に関して本協会が設定した到達目標に至るために各大学は、独自の工夫を凝らした学修項目・学修プログラムを設定して、学生の教育を行います。下はその一例です。

上級情報処理士の領域2「プログラミングの知識と実践」で設定された学修項目と学修プログラムの一例

学修項目	学修プログラム
<ul style="list-style-type: none"> ・Python 開発環境整備 ・Python によるプログラミングの実際 ・Python の特徴と基本文法 ・変数 ・オブジェクト指向とクラス ・制御構造 - 条件分岐 ・制御構造 - 繰り返し ・文字列と配列 ・メソッドと関数 - メソッド呼び出し ・メソッドと関数 - メッセージ駆動 ・簡単なアルゴリズムの実装 - 配列操作 ・簡単なアルゴリズムの実装 - ソート 	<p>発想したアイデアや技法をコンピュータで実行するため、アイデアや技法を具現化する方法を知り、比較的簡単なアルゴリズムを対象としたプログラミングについて学修する。コンピュータに指示可能なプログラミング言語には Python を用い、簡単なアルゴリズムの組み合わせで比較的複雑な処理も実現可能であることを実践的に修得する。</p>